

教科	社会（小）
主体的・対話的で深い学びの授業改善に向けたポイント	
<p>(1) 問題解決的な学習過程の充実 単元などにおける学習問題を設定し、その問題の解決に向けて諸資料や調査活動などで調べ、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして表現し、社会生活について理解したり、社会への関心を高めたりする学習を充実させる。</p> <p>(2) 単元等のまとまりを見通した学びの重要性 主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではない。単元など内容や時間のまとまりの中で、例えば、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するのか、対話によって自分の考えを広げたり深めたりする場面をどこに設定するのか、といった視点で授業改善を進めることが求められる。</p> <p>(3) 問いを意識する 問いとは、調べたり考えたりする事項を示唆し学習の方向を導くものであり、単元などの学習の問題はもとより、児童の疑問や教師の発問などを幅広く含むものである。教師が資料等を準備する際には、社会的事象の見方・考え方（「位置や空間的な広がり」「時期や時間の経過」「事象や人々の相互関係」などに着目して（視点）、社会的事象を捉え、「比較・分類したり」、「総合したり」、「地域の人々や国民の生活と関連付けたり」すること（方法））に基づいて問いを意識することが大切である。</p> <p>(4) 言語活動の充実 社会的事象の特色や意味、社会に見られる課題などについて、多角的に考えたことや選択・判断したことを論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりするなど言語活動に関わる学習を一層重視することが大切である。</p> <p>(5) 実社会の人々との連携 博物館や資料館などの施設の活用を図るとともに、身近な地域及び国土の遺跡や文化財などについての調査活動を取り入れるようにすること。また、内容に関わる専門家や関係者、関係の諸機関との連携を図るようにすることが大切である。</p>	

教科	社会（中）
主体的・対話的で深い学びの授業改善に向けたポイント	
<p>(1) 問題解決的な学習過程の充実 単元など内容や時間のまとまりを見通した「問い」を設定し、「社会的な見方・考え方」を働かせることで、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連等を考察したり、社会に見られる課題を把握してその解決に向けて構想したりする学習を一層充実させる。</p> <p>(2) 単元等のまとまりを見通した学びの重要性 単元など内容や時間のまとまりの中で、例えば主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するのか、対話によって自分の考えを広げたり深めたりする場面をどこに設定するのか、といった視点で授業改善を進めることが求められる。</p> <p>(3) 問いを意識する 問いとは、調べたり考えたりする事項を示唆し学習の方向を導くものであり、単元等の学習の問題はもとより、生徒の疑問や教師の発問などを幅広く含むものである。教師が教材や資料を準備する際には、各分野における見方・考え方を踏まえた問いを意識することが大切である。</p> <p>(4) 言語活動の充実 社会的な見方・考え方を働かせることをより一層重視する観点に立って、社会的事象の意味や意義、事象の特色や事象間の関連、社会に見られる課題などについて、考察したことや選択・判断したことを論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりするなどの言語活動に関わる学習を一層重視する。</p>	

